

〔古今著聞集博奕〕後鳥羽院御時、伊與國おふてらの島といふ所に、天竺の冠者といふもの有けり、
略○下

〔古今著聞集魚出禽獸〕安貞の比、伊與國矢野保のうちに黒島といふしま有、人里より一里ばかりはなれたる所也。

〔豫章記〕伊與見島ハ加茂領也、神書、東駒蹄屈程、西櫓械及程、加茂御領ニアラズト云事ナシト見えタリ、其儀ニヤ、此島本ハ加茂御領也。

〔東寺百合古文書百八十一〕東寺領伊豫國弓削島、雜掌教念、與當島三分二地頭小宮兵衛次郎入道西縁今者死去、子息又三郎頼行代廣行、相論所務條々、略○中

永仁四年五月十八日

陸奥守平朝臣花押條宣時北

〔太平記二十二〕大館左馬助討死事、附篠塚勇力事

篠塚伊賀守略○中、追懸タル敵二百餘騎ニ、六里ノ道ヲ被送テ、其夜ノ夜半計ニ、今張浦ニゾ著タリ

ケル、自此舟ニ乗テ、隱岐島ヘ落バヤト志シ、船ヤアルト見ルニ、敵ノ乗棄テ、水主計殘レル船數タアリ、

〔愛媛面影越智郡〕篠塚伊賀守墓、今治の海上沖島に在り、一社の傍に苔むしたる五輪塔是也、略○中

按、日本外史曰、賊不敢追躡、至今治浦、見賊空船、獨有舟人、篠塚游而達之、跳入船、自名曰、送吾於隱岐、手拔錨、樹桅、登船屋、鼾睡、舟人畏怖、送至隱岐、以終焉、といへり、太平記に所謂隱岐島は、即今治の沖島なるを、外史に隱岐國と爲すのは誤れり、

〔愛媛面影五和郡〕沖島。

宇和島より廿五里南の海上に在り、是を土佐國の堺とす、此島昔より檳榔樹を産せり、櫛に製り